

## ■失望における訓練（2/3）

神の民は、このことが真理であることを常に見出してきた。ダビデは、あまりにも深く失望落胆を体験したために、もはや涙さえ出ないほどであった。「しかし、ダビデは彼の神、主によって奮い立った」（1サムエル 30:6）。彼はこう言うことができた。「あなたの大滝のとどろきに、淵が淵を呼び起こし、あなたの波、あなたの大波は、みな私の上を越えて行きました。（しかし）昼には、主が恵みを施し、夜には、その歌が私とともにあります。私のいのち、神への、祈りが」（詩篇 42:7、8）。

ハバククは、外見的には全然繁栄を期待することができず、ただ全くの荒廃と失望だけがあるのを見た。しかし、感謝の心は彼を、勝利の高峰に引き上げたのである。「いちじくの木は花を咲かせず、ぶどうの木は実をみのらせず、オリーブの木も実りがなく、畑は食物を出さない。羊は囲いから絶え、牛は牛舎にいなくなる。しかし、私は主にあって喜び勇み、私の救いの神にあって喜ぼう。私の主、神は、私の力。私の足を雌鹿のようにし、私に高い所を歩ませる」（ハバクク 3:17-19）。

パウロは、他の人々がくじけてもなお感謝し、神とともに歩み続けることができた。あなたも、絶望に陥りそうになったら、感謝することに努めなさい。

確信を持つことは助けとなる。パウロは、たとい失望の状態にあっても、キリストの凱旋に伴われることができると確信していた。モファット訳にはこうある。

「神は感謝すべきかな。私がどこへ行こうとも、神は私の生活をキリストの凱旋の不断のページェントとし、私によって、キリストを知る知識のかおりが至る所で放たれるようにしてくださるのである。」

パウロは、広範囲にわたる経験と深い試練を経て、人間的な考え方を超越したところにまで引き上げられた。なぜなら、「神を愛する人々……のためには、神がすべてのことを働かせて益としてくださる」ことを学んだからである（ローマ 8:28）。人間的に見て孤立しているときにも、彼はキリストに対する信仰を堅く保

って立つことができた。なぜなら、「みな私を見捨ててしまいました。……しかし、主は、私とともに立ち、私に力を与えてくださいました」と言うことができたからである（Ⅱテモテ 4:16、17）。彼は弱さ、窮乏、悩みに耐ええただけか、それらを喜ぶことさえできた。なぜなら、自分が弱いときにこそキリストにあって強くあることができること、キリストの恵みが自分にとって十分であることを知っていたからである（Ⅱコリント 12:19、20）。彼は主が備えてくださったものに満足することができた。なぜなら、どんな境遇にあっても足ることを学んでいたからである。彼は彼を強くしてくださるキリストによって、何ごとでもすることができた（ピリピ 4:11-13）。

私たちは、失望からとげを除き、それを變えて「神の定め」とする信仰の確信を体験しているだろうか。ヨセフは、「私をここに遣わしたのは、あなたがたではなく、実に、神なのです」と言うことができた（創世 45:8）。至高者なる神がヨセフの霊を非常に祝してくださったので、彼は息子たちをマナセ（忘れる）、エフライム（実り多い）と名づけた。なぜなら、神が彼に失望を忘れさせ、悩みの地にあって彼に実を結ばせてくださったからである（創世 41:51、52）。

パウロはヨハネ・マルコに失望したが、のちには、そのヨハネ・マルコが自分の務めのために「役に立つ」ことを知った（Ⅱテモテ 4:11）。主イエスはペテロに失望されたが、ペテロが立ち直って初代教会の有力者となるように祈られた（ルカ 22:31、32）。もし私たちが、自分を失望させた人々のために、信仰と愛をもって祈るとすれば、どういうことが起こるだろうか。彼らは、救い主に立ち返らないだろうか。私たちの心は、甘美な喜びに満たされないだろうか。私たちの生活は「キリストの凱旋の不断のページェント」とならないだろうか。パウロのように、神の約束を確信しなさい。パウロは、「私の身に起こったことが、かえって福音を前進させることになった」と言うことができた（ピリピ 1:12）。失望に直面するとき、神を信じ、また友を信ずるよう努めなさい。